『ゴジラ -1.0』

2023年／日本／山崎貴監督作品

話題の名作をご紹介

『ゴジラ -1.0』
5月1日（水）Blu-ray & DVD 発売
価格：DVD3 枚組
4,950 円（税抜：4,500 円）
発売・販売元：東宝
©2023 TOHO CO., LTD.

会員　伊佐山 哲郎（74 期）

あくまでも私の勝手なイメージだが、このような映画紹介をする場合、あまり多くの人に知られていない作品、紹介されないと気付くことが困難な時を遡った作品、大々的に上映されたわけではなく、知る人ぞ知る単館上映系の作品等を紹介するものではないかと思う。

だが私は、この流れに反し、ど真ん中の話題の名作を紹介したい。私のゴジラ映画との出会いは浅い。初めて見たのは、前作の『シン・ゴジラ』（2016年）からである。庵野秀明氏が脚本・総監督を務めた作品ということが気になって、初めてゴジラ作品を見ることにしたのであった。この作品はある意味期待通りであって、沢山のゴジラの姿を見ることができた。ゴジラが途中で形態をいくつも変化させることもあって、そのおぞましくも美しい姿を堪能できたものである。

私の中で、『シン・ゴジラ』は完璧であったから、最初で最後のゴジラ作品鑑賞となる予定であった。あれ以上に美しいゴジラが描かれることはないだろうと思ったからである。そんな私にも、『ゴジラ -1.0』の評判は聞こえては来ていた。それでも私の心は、鑑賞する方向には動かなかった。そんな私を鑑賞へと突き動かしたものはなんであったのか。それは、たまたまSNSで、「今作のゴジラの見た目が可愛い」と聞いたからである。可愛いもの好きの私としては黙っていられない。急遽予定を変更して、いそいそと鑑賞する運びとなった。この時の自分を褒めるとしたら、間違いなくポケットにハンカチを入れていたことだろう。そのハンカチで溢れる涙を拭うことができたのだから。

前作は現代が舞台であったので、スマホや自衛隊の最新鋭機器などが出てくるが、これに対して今作の舞台は戦後まもなくの日本である。時代設定が遡ってしまったため、ゴジラに立ち向かうべき武器どころか、戦後間もなくの時期で、住む家も家族も失った人々には、日々の暮らしも大変な時期である。そんな当時の日本で、ゴジラが出現してしまったら、誰がどう立ち向かえば良いというのか。出発点からして絶望的な状況といえるのが今作である。

結論的に言えば、今作のゴジラが可愛かったのかどうかは分からずじまいである。なぜなら、たっぷりとゴジラの姿を堪能できたのが前作であったのに対して、今作は、ゴジラの姿を見る機会それ自体は、おそらくうんと少なかったからである。では、ゴジラ映画だというのに、一体本作はどこに焦点を当てているというのか。それは、人である。今作は、ゴジラという媒介を通した人間の物語である。

主人公は特攻隊員であった。命の片道切符しか持たされていなかったはずの彼が、なぜ生きて帰れたのか、帰る場所は彼に残されていたのか、戦後彼は誰と出会い、何を考えて日々生きていたのか、あるいは彼は死のうとしていたのではないか、ゴジラとの闘いはその大きな理由となりえたのではないか、ゴジラとの闘いで、彼は生きることと死ぬことのいずれを選択したのか。そしてその結果は。

これは、私からの、本稿を読んでくださった方への壮大な煽りである。決して配分を間違えて肝心なことを書くスペースがなくなったわけではない。本作を鑑賞してみようか、と思っていただければ幸いである。